

# ロゲイニングの可能性

星野敏男 (社)日本キャンプ協会常務理事(朝霧運営担当理事)

キャンプ協会の星野氏に、久しぶりに見るオリエンテーリングの状況について感想を綴っていただいた。

静岡県朝霧野外活動センターは本年度より日本キャンプ協会が委託運営を行なっている。「これまでにない施設独特の行事を！」そう考えた同センターが採用したのは、オリエンテーリング・ロゲイニングだった。

## 久しぶりのオリエンテーリング

私たち(社)日本キャンプ協会が指定管理者となっている朝霧野外活動センターでは、昨年秋、オリエンテーリングin朝霧という行事を主催しました。初日の夜は、私も楽しみにしていた村越先生の講義や田中さんのアドベンチャーレース紹介など、楽しく受講させていただきました。村越先生の講義では本当に久しぶりに地図を読みました。細かな地図記号などはすっかり忘れていましたが、等高線の尾根や谷筋などの見分けは結構出来ていて、アシスタントの宮内さんにほめられ、うれしくなりました。もしかすると学生の頃に地図を見た記憶が残っていたのかも知れませんが。

## オリエンテーリングの思い出

私はこれまで、三回ほどオリエンテーリングやその世界の人たちに出会ったことがあります。今回、村越先生から原稿を依頼され、あれこれと思い出しました。

最初に OL と出会ったのが今から 30 年以上前、学生の頃です。当時、研究室の先輩大学院生に橘さん(橘直隆先生: 筑波大教員で現 OL 協会副会長)がいて、親しい先輩でもあったので、よく連れられて一緒に OL 大会に参加していました。確か、1974 年頃から 3 年ほどだったと思います。そのころの地図が今でも 10 枚ほど手元にあったので、調べてみたら、多摩 OL クラブなど

が主催して行っていた狭山湖周辺や飯能あたりの大会に H21A というクラスで出ていました。成績はいつもいまいでしたが、とても楽しい思い出として残っています。

2 回目の出会いは、20 年ほど前、1985 年の夏です。私が 1 年間アメリカで在外研究している折、前に述べた橘さんが日本の OL 選手団をカナダのトロントに連れて来るという連絡をいただいたので、イリノイ州から車でトロントまで会いに行きました。日本から来た皆さんは確か、ヨーク大学の宿舎に泊まっておられたように記憶しています。数日間一緒にさせていただき、カナダでの OL 大会の様子も、垣間見ることができました。

## ロゲイニングを見て

そして、今回です。ロゲイニングというのは初めて聞く言葉で、一体どのような内容のものなのか、興味津々でしたが、前夜に行われた田中さんのアドベンチャーレースの話や、翌日集まってきたグループの面々や、準備している様子を見ているうちに、だんだん想像がついてきました。

ところが、スタートを見送った直後に、その日の地図を村越先生から渡されてビックリ。長年、キャンプや指導者養成などで、この朝霧周辺をくまなく歩き回り、だいたい周辺地形が頭に入っているのに、地図を渡されて見た瞬間、驚いてしまいました。「え！こんな遠くまで、こんなにたくさんあるんですか？」「・・・まあ、もしかして、これって全部回って来るグループもいるんですか？」「でも、このポイントって、あの尾根の上でしょう？」「無理なんじゃないですか？！」と次から次へと矢継ぎ早に村越先生に聞いていました。そしたら、あっさりと「速いグループは回ってくるでしょう、世界選手権にも出ているメンバーですから」とのお答え、ただただもうビックリでした。そうしたら本当に時間内に全部回って帰ってくるグループがいるんですね。さらに個人でオープン参加トライした講師の松澤先生も全部回って帰ってきましたから、いやはや、ほんとに、すごい人たちがいますね。参りました。

## ロゲイニングの可能性

さて、個人的な感想ですが、今回この事業を見ていて、ロゲイニングに野外活動プログラムとしての新たな可能性を感じました。ウォークラリー、オリエンテーリング、アドベンチャーレース、それぞれの面白さがミックスされていて、しかも、ファミリーからトッププロの競技選手まで、やり方次第で幅広く対応でき、それぞれのレベルに応じた楽しみ方が可能だということが見えて良くわかりました。現に当日も、小学生の兄弟を連れた数組のファミリーは、施設周辺をゆったりとまわって楽しんで帰って来られました。こういう楽しみ方もありだなと思いました。

また、競技やスポーツとしてばかりでなく、学校教育や教育施設でのプログラムとしても、地図読みとナビゲーション、グループでの課題解決とチームワーク、ルートプランニングと地図クイズ、など、やり方やアイデア次第であれこれと新たな方法やプログラム、楽しみ方が考えられそうです。そして、大会のフィールドも会場として見るだけではなく、地域との連携や地域活性化に繋げるという視点でコースセッティングや地域とのコミュニケーションなども考えていくと、地域と人とプログラムの新たなつながりを生み出すことになるのではないかと感じました。

業界全体でオリエンテーリングの振興を図るためには、それを振興する団体の組織運営をどうするかという視点はもちろん大事ですが、同時に、時代にあった活動のあり方や考え方をどのように組織が柔軟に取り入れていくかも重要な課題となっているような気がします。今回、そのようなことを感じた二日間でした、ありがとうございました。

(星野敏男)